助成者	反町　眞理子	活動期間	2014年4月～2017年2月
所属機関	コーディリエラ・グリーン・ネットワーク	職　名	代表理事

ルソン島北部先住民族の子供たちを対象とした演劇を活用した環境教育プログラム

【活動場所】フィリピン　ルソン島北部山岳地方（コーディリエラ地方）
【事業目的】ルソン島北部山岳地方はルソン島内でわずかに残された森林地帯であるが、その地域で暮らす先住民族は貧しく、現金収入を求めて焼畑による森林破壊や資源開発が進んでいる。先住民族は精霊崇拝や農耕儀礼など貴重な伝統文化を持っているが、開発とそれに伴う社会変容により自然や環境への意識が揺らいでしまっている。自然や環境保全に関する知識や意識を取り戻すため、青少年に対して演劇を使った環境教育を行い、環境保全への自主的な活動を啓発することを目的に実施する。

演劇ワークショップの様子

取材したテーマの演劇発表

【活動内容】
1年目：先住民の民話を収集し、「先住民の自然と共生する叡智」をテーマとした演劇ワークショップを小学生と高校生を対象に計3回開催（延べ12日間、164名参加）。環境教育教材として民話の絵本を作成し、1000部を小学校へ配布。
2年目：「鉱山開発の環境へ与える影響」をテーマとして演劇ワークショップを高校生と大学生を対象に2回開催（延べ4日間、51名参加）。2回目のワークショップの内容をビデオ編集し、完成したDVDを学校等へ配布。
3年目：鉱山開発者のインタビューを実施し、モノローグ原稿を軸とした演劇ワークショップを先住民族青少年14名対象に13日間開催。最終日は演劇発表をダジャン町で実施しハイスクールの全生徒含む250名の地域住民が鑑賞。内容をビデオ収録。
【活動成果】
テーマを、初年度は先住民の教えから始め、2年目、3年目はより具体的な環境問題への取り組みへプログラムを進化させ、多くの人々へ環境問題への啓蒙を行なうことができた。演劇は、ファシリテーターに花崎攝氏を招き、観客参加型のフォーラムシアターの形を取入れて視聴者が自ら考えることができる形とした。演劇の質とテーマ内容の両面を、回を重ねる毎にレベルアップすることができ、参加者からも高い評価をいただくことができた。